

○ワカメの分布南限 (岡田喜一) Yoshikazu OKADA: The southern extremity of distribution of *Undaria pinnatifida* (Harv.) Sur.

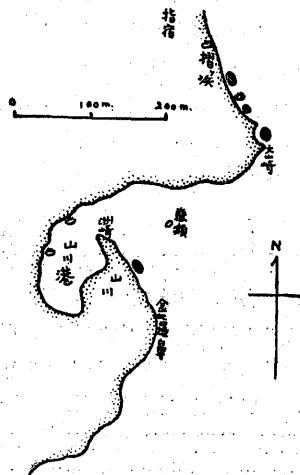
從來知られてゐるワカメの分布南限は九州の西海岸、鹿児島縣出水(いづみ)郡阿久根、東海岸、宮崎縣東臼杵(うすき)郡細島となつて居る。

著者は一昨年秋、鹿児島縣下のワカメ増殖試験候補地を選定のため佐多町伊座敷に赴いた際、肝屬(きもつき)郡大根占に自生地のある事を聞き、早速現地へ行つて確めた結果、五年前までは発生したが颱風後、近年は全く跡を絶つたとの事であり、其発生現状の模様を聞くに嘗て對岸、山川から護岸用の石材を運んだ形跡があつた。依て或は山川附近から運んだ此岩石に適々ワカメの孢子着生して居た事も一應考へられたので、[更に山川に赴きワカメ發生の有無を調査した所、山川港の外側に自生地のある事を突とめ、乾燥した布株(成實葉)を入手する事を得た。依て更に本年、此附近一體の分布區域を調査した結果、指宿附近に自生地を發見し、多數の資料を採集する事を得た。然も此地點では極めて浅い海岸に近い岩礁上に點在して居る。尙、この浅海に自生するものは短いもので葉の長さに比して幅廣い形のものであるが、ワカメは元來、各地に産するものが皆、自生地の水深の深淺、潮流の緩急に依つて葉形に變化を來す傾向がある。阿久根に於ても水深四尋内外のものは長さ一米半に及んで居る。

依て、ワカメの分布南限は既知の區域より更に南下し、その自生區域は右の圖の如き結果となつた。

縣下のワカメ自生地は更に指宿郡の南端、長崎鼻附近にもある由を聞き及んで居るが未だ確證を得て居らない。本年春も調査に赴いたが天候の都合上、確認する事を得られなかつた。この長崎鼻附近に若し確かに本藻が自生して居れば當然その分布南限は更に南下するわけである。

以上に依つてワカメの分布南限に關する最近の状況は一應解決したが、之が氷産的見地からみて重要な意義は今後、南陸、大隅方面にワカメの増殖を行ふに當つて種株を遠く阿久根或は宮崎縣下より運搬する必要がなくなる點で、經費、游走子放出率等からも有利になるわけである。因みに、昨年著者は阿久根より大隅伊座敷にワカメ移植試験の爲め種株を輸送したが、本年春、成功し、伊座敷附近にワカメ移植、生育する事の可能なる事を立證し得た。(24, 9, 28 記)。



ワカメ分布南限自生地